

文選卷第一

梁昭明太子撰

昭明太子撰
茶陵劉士陳仁子校補

五臣并李善注

五臣注
李善注

賦甲

善曰賦甲者善題甲乙所以冠卷先後今
卷既改故甲乙並除存其首題以明舊式

京都上

班孟堅兩都賦二首

善曰自光武至和帝都洛陽
西京父老有怨班固恐帝去

兩都賦序

班孟堅

統曰漢書云班固字孟堅扶風安陵人九
歲能屬文至明帝時為蘭臺令史遷為郎

唐
魏隱嘗著述士手續念李說

後寶憲出征匈奴以固為中護軍憲敗坐
免官死獄中明帝脩洛陽西土父老悲帝

もん ぜん 文選
な お え ばん 直江版

慶長12年刊 60卷首1巻 31冊
縦 28.5 cm 横 20 cm

安土桃山時代から江戸初期にかけて直江兼統なおえかねつぐという武将がいた。越後、会津若松、米沢を転々とした上杉家の家老だった。歴史愛好家の間では知られていたが、昨今の武将ブームにのって有名になった。

兼統は慶長十二年（一六〇七）、京都の要法寺ようぼうじに、木活字もくかつじをもって本書『文選』を開版させた。現在、古活字版と呼ばれる出版形態に属し、特に直江版とも呼ばれる。

日本の古活字版は朝鮮活字版や西洋活版印刷の影響を受けて始まったとされ、その時期は、十六世紀末からほんの五十年ほどの間だった。総じ



て稀観書きかんしよと言えるが、中でもきりしたん版、勅版ちよはんなどは特に貴重である。

古活字版以前、日本の書物は仏典を除くとほとんどが筆写であった。しかし、活字の印刷技法が入ると、それまでの筆写に代わり、印刷出版が可能になり、書物自体の総数が増える。これによって読者層の裾野すそのが広がることとなり、限られた人の間で伝えられていた歴史や物語、さらには趣味に至るまでの書物が活

字によって出版され、多くの人の目に触れることになった。

古活字版は日本文化に多大の影響を与えた書物であった。

兼統は上杉家の名宰相めいさいしやうとして有名だが、多くの古書を蒐集しゆじゆした書物愛好家で、詩文をもよくした文化人であった。

なお、掲出書にある朱引きは、文字上に引いた二本線が書名、一本線が人名、右の傍線は地名を意味する。

（天理図書館 早田一郎）

天理図書館のお知らせ Tel:0743-63-9200 <http://www.tcl.gr.jp/>
 平日（午前9時～午後5時半） 土・日・祝（午前9時～午後4時半）
 ただし9月30日は休み
 （本欄にて紹介した名品の閲覧については係へお尋ねください）